2025年度鹿児島大学医学部ウィンドサーフィン部

正規練・自主練規定

自主練

部のボートあるいは広津さん、または広津さんのお兄さんが磯にいらっしゃるかを確認し、レスキューできる船がない状態での練習は原則禁止とする。

プレイヤーがするべきこと

前日までにライングループ「技術向上委員会」で自主練の連絡をすること
当日は「技術向上委員会」で出着艇申告を必ずすること。
１，ライフジャケット
２，連絡機器
３，レスキューシート(直径４㎜以上長さ８ｍ以上のもの、ほどけにくい素材)
４，気候に応じて飲み物や防寒着
５，予備のジョイント

着艇時間

原則として日の入り時刻の２時間前までに着艇すること

階級区分

クラス１　平均風速10m/ｓ以上でのぼれる・下れる者
クラス２　平均風速８ｍ/ｓ以上でのぼれる・下れる者
クラス３　平均風速６ｍ/ｓ以上でのぼれる・下れる者、風速1m/ｓ未満で進むことができる者
クラス４　経験が１年以上の者
クラス５　ビギナークラスの者

■オンショア（北東～東 or 南東～南）の風
平均風速０～４ｍ/ｓ　クラス４・5：クラス２以上の者と練習すること
クラス３：必ず２人以上で練習すること

風速が弱くても磯は潮の流れが速いため注意すること

平均風速５～７ｍ/ｓ　クラス ４・５・３：クラス２以上でレスキュー可能な者と練習すること

クラス４には必ず１人つくこと

平均風速８ｍ/ｓ以上　クラス５・４：自主練禁止

クラス３：クラス２以上でレスキュー可能な者と１：１の人数比で練習すること

クラス２：２人以上で練習すること

■オフショア（北西～西～南西）の風

平均風速０～４ｍ/ｓ　クラス４・５：クラス３以上の者と練習すること

クラス５には必ずクラス３以上の者が１人つくこと

平均風速５ｍ/ｓ以上　クラス５：原則禁止

クラス４・３：クラス２以上の者と練習すること

クラス２：２人以上で練習すること

常にいつでも浜に帰れる状況を確保した状態で自主練習を行えるようにすること。また、平均風速が 5m/sec の場合でも最高風速が 10m/sec を超える予報の場合は原則として上級者以外の全てのプレイヤーの自主練を禁止する。

着艇基準

セールアップを基準に着艇を促す規定・強制を上級学年が行う。

セールアップを 2 分以上行う姿勢をみせない、又は 5 分間セールアップばかりを行っている場合すぐに着艇を促す。着艇後は練習を中止させるか岸近くで範囲を定めて練習をさせるかにする。その判断はその場にいる上級学年が行う。

南風のときは北の船着き場、北風ときは磯のマンションを超えた場合、オフショアのときは目印のブイを超えた場合に着艇を促す。自力での着艇が困難な場合はレスキューを行う。

正規練

出着艇申告を徹底すること

持ち物の確認を徹底すること(連絡機器を持たないプレイヤーの出艇は認めない)

磯の広津さん、またはお兄さんがいらっしゃることを確認し、万が一の場合にレスキューが可能か確認する。

オフショアでレスキューできる船がないときは原則として練習中止

その他

・フェリー航路に 400m以上は近づかないこと（目安：テトラの直線部分の距離が約 500m、基本的に南の白ブイより奥で練習しないこと）
・下級生が南側の岩場に差し掛かったら、上級と交代するなどして着艇に向かう。
・ボート出艇禁止基準 波高が 1.0m（仮）以上

緊急連絡先

・廣津さん
・廣津さん兄
・天竜丸
部員は番号を登録しておくこと
もし万が一、フェリー航路に侵入の恐れ又は侵入した場合、フェリー運行課に連絡を入れる。
船舶局 船舶運航課　電話番号：099-293-4788

緊急時対応

ウィンドサーフィンで走行可能な場合
　岩場を越えて乗れてない部員を見つけ次第、上級生で走行可能な部員が急いで着艇し、ボートに乗り、その艇の部員と乗り替わりレスキューを行う。
リグの故障等で走行不可能な場合
　岩場やフェリー航路に近い場合は牽引ですみやかに離れることを優先させる
　その後船長または練習隊長の判断により浜までの距離や他のレスキュー状況に応じて牽引を続けるか海上解体をするかでレスキューを行う
ボートがエンジン停止等により走行不可能な場合
　最低ラインはウィンドサーフィンと同じとする。ラインを超えてもエンジンがつかなかった場合は早急に磯マリンショップに連絡を入れ、船によるレスキューを要請する。磯マリンショップがレスキュー船を出せない場合は、最終手段として天竜丸さんに連絡して船によるレスキューを要請する。
サップによるレスキュー
　５m/sec 以上または大潮の際、サップによるレスキューは行わないようにする。
（交代した人がサップで進めない人だと、２次災害につながることを考慮する。）

低体温症対策

季節に関係なくボートには防寒用アルミシートを常備しておくこと
　参考　意識不明に陥るまでの時間

水温０～5度　１５～３０分
水温５~１０度　３０～６０分
水温１０～１５度　１～２時間
水温が１５度を下回ると低体温症のリスクが高まるため、水温 15 度を下回る場合はスプレーを原則着用またはボートに預けることとする
夏場でも低体温症のリスクがあることを理解し、十分に注意すること

＜中止基準について＞
実施責任者：鹿児島大学ウインドサーフィン部顧問 花谷 亮典
現場責任者：練習隊長　土肥真子
現場副責任者：部長　川路奈那

１．現場責任者、副責任者は、部活動を行う際に、上記の基準に基づき練習の可否判断を行う。現場責任者、副責任者が不在の自主練においては、自主練を行う者のなかで最高学年の者がどちらかに報告を行い、可否判断を行った後出艇するものとする。
自主練も含め、当日の環境（陸地での風速と海上での風速、天気、波の高さ）と実施内容と可否判断を現場責任者に報告する。

２．正規練においては、ボートを出せない場合は練習中止とする。
波高が 1.0m（仮）以上の場合はボートを出艇禁止とする。

３．練習（自主練も含める）を行う際に、雷警報が発令されている場合は練習中止とする。

４．視界が、２km 未満の際は練習を中止とする。
＊２kmの目安としては磯の堤防から見てフェリー航路の手前の堤防の目視が可能かどうかで決める。（参考；桜島までは４km。）

５．上記基準によるもののほか、実施責任者、現地責任者が危険と認める場合は、活動を中止する。

６．自主練習において、上級であっても廣津さん（又は兄）又は天竜丸さんが船を出せない状態では、出艇禁止。

７．実測での最大瞬間風速が１５m/sec 以上又は最大風速１８m/sec 以上の予報がある場合

2025/3/20　編集

鹿児島大学医学部ウィンドサーフィン部練習隊長　土肥真子